

## 地域の経済動向（令和4年1～3月期）

### 《釧路・根室地域》

#### 1 経済動向に係る企業等の声（1～3月期）

##### 【建設業】

- ・人材不足による売上高の横ばい傾向が続いている。賃上げを求められても企業努力だけでは限界がある。（土木工事業（舗装工事業を除く））
- ・働き方改革による労働時間の削減や休日の増加を、社員を増員することでカバーしたいが、建設業界は労働者不足で、募集しても応募がなく困っている。（建築工事業（木造建築工事業を除く））

##### 【製造業】

- ・原料の魚が少なくなってきた。（水産食料品製造業）
- ・働き方改革が大事であることは承知しているが、下請けの場合、残業や休日作業がないと手当を支給しにくい面があるので、一律に労働時間を削減することは、企業の売上や社員の収入にも影響することも考慮していただきたい。（船舶製造・修理業、船用機関製造業）
- ・コロナの濃厚接触者が社内では発生すると、連鎖的に自宅待機者が増え、人員不足になる。特に機械のオペレーターが長期間の待機になると納期に影響があり、酷い場合は製造がストップしてしまう。オールラウンダーの人員育成と確保が課題である。（紙製容器製造業）
- ・対面販売の催事では、まだ試食が認められていない。対面販売では、試食によって購入促進に繋がるケースが多いので、試食ができない状況では厳しい。（製造業）
- ・コロナの前からすでに不漁であったため、早くに輸入原料に切り替えて対応していた。また、以前は採算ベースを割り込んでいたが、数年前に融資を受けたことで業績は改善し、現在は採算ベースにのるようになった。現在、人手も減っているため今後は大量に製品を作るのではなく、発注を受けた分だけ作るやり方へシフトする。（製造業）
- ・営業を行うスタッフが不足している。人手不足のため、物産展の出展の際にスタッフの派遣ができない状況。イベント等への人の派遣が一番ネックとなっている。（製造業）
- ・漁獲量が減ってきている。根室市民は、中元等で魚を送る方が多いが、最近はその機会も減ってきていて、根室の魚専門店の役割が減ってきていると感じている。百貨店の大北海道展にも出展しており、消費者が何を求めているのか把握するためには現地へ行ってお客さんの反応を確認して商品作りに活かしている。ただ、魚を獲って売るだけやお客さんが来るのを待っているだけでは厳しい状況。新商品の開発など積極的に行っていく。（製造業）
- ・売上は、コロナ前の3割減。原材料に関しては、さんまの水揚げ量が少なく、少ない年の4割減となり、厳しい状況となっている。しかし、コロナに係る在宅需要の影響で主な商品である常温のレトルト商品の売り上げは伸びている。（製造業）
- ・さんまの漁獲量が安定せず、新商品をつくっても商品単価を安定させるのが難しい。現在は、ふるさと納税に特化した新商品の開発などに力を入れている。北海道というブランド力を強みに、今後は海外輸出にも力を入れていきたい。（製造業）
- ・これからサケ、マス漁や昆布漁も始まるが、日本ロシア間での調停ができる状況ではないので、漁はできないのではないかと考えている。また、大手の百貨店などではロシア産の商品の販売を控えるなどの動きも出てきているため心配。（製造業）

##### 【運輸業】

- ・燃料価格の高騰が続いているため、運送コストが上昇し、先行きが不透明な状態が続いている。コロナの影響で売上減少が続く中、燃料価格高騰のダブルパンチを受け、どこまで耐えられるか分からない状態。採算の合わない業務を断ることに方針転換し、少しずつだが発展的縮小を進めている。（一般貨物自動車運送業）
- ・ここ数年乗務員不足が続く、仕事があっても稼働できないことがあったが、仕事量の減少が続いているため余裕があるという逆転現象が起きている。業務を全員で分け合いながら復活できる日を待っているが、以前のように戻るのか判断が難しく抜本的な対策も取れていない。（一般貨物自動車運送業）








##### 【サービス業】

- ・コロナ禍で婚礼の延期が相次ぐ中、スタッフを確保し続け、人件費を支払うことに苦慮している。（美容業）









**【関係機関・団体】**

- ・管内景気は、コロナの影響から、厳しい状態にあり、持ち直しの動きが足踏みしている。(金融機関)
- ・飲食店が時短要請に応じ休業をしても、厳冬期による凍結防止等のため、暖房を付けなければならず、他地域にはない切なさがあるとの声があった。(商工会議所)

















2 道内金融機関から見た地域景況感 (1～3月期)

① 非常に好調 	② 好調 	③ やや好調 	④ 普通 	⑤ やや低調 	⑥ 低調 	⑦ 非常に低調 
---	--	--	--	--	--	---

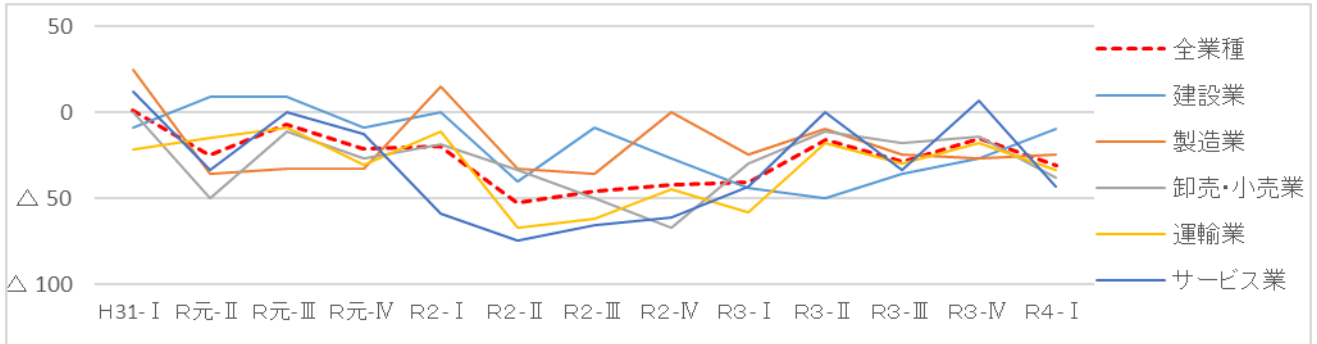
【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産 動向	消費 動向	判断理由	方向感	判断理由
釧路信用金庫				新型コロナウイルス感染症の再拡大により、飲食・宿泊、観光関連産業等を中心に影響を受けている。また、原油価格の高騰やウクライナ情勢の変動による負の影響も出ており、景気動向は「低調」と判断した。		ウクライナ情勢の変動により、原材料の値上がりや確保ができない状態が一段と深刻化しており、幅広い業種に影響が出ていることから「下降傾向」と判断した。
大地みらい 信用金庫				新型コロナウイルス感染症による外出自粛や時短営業要請に伴い、主に観光・飲食分野への影響が大きい。ロシア、ウクライナ情勢の影響により、燃料価格が高騰し、多様な業種への影響が増大している。酪農業では、乳製品の需要減退により、乳価下落が生産者への打撃となっていることに加えて、輸入飼料の価格が高騰し、採算性が低下している。水産業では、「安全操業」の厳しい臨検が継続し、サンマ、鮭・鱒などの主要魚種の水揚げが軒並み減少している。水産加工業についても、取り扱い数量の減少やウニなどの輸入原料の確保がしにくい状況が継続している。		新型コロナウイルスによる影響は、まん延防止等重点措置の解除により、飲食店の入込みは戻りつつあると感じるが、先行きは不透明である。ロシア、ウクライナ情勢による経済活動と国交の回復には時間を要すると予想し、「操業権」や「漁獲枠」の交渉が難しくなる恐れもありマイナス要素が強い。昨年、赤潮による漁業被害発生しており、昆布や貝類など養殖への影響度は、いまだ不透明である。

【景況感の推移】

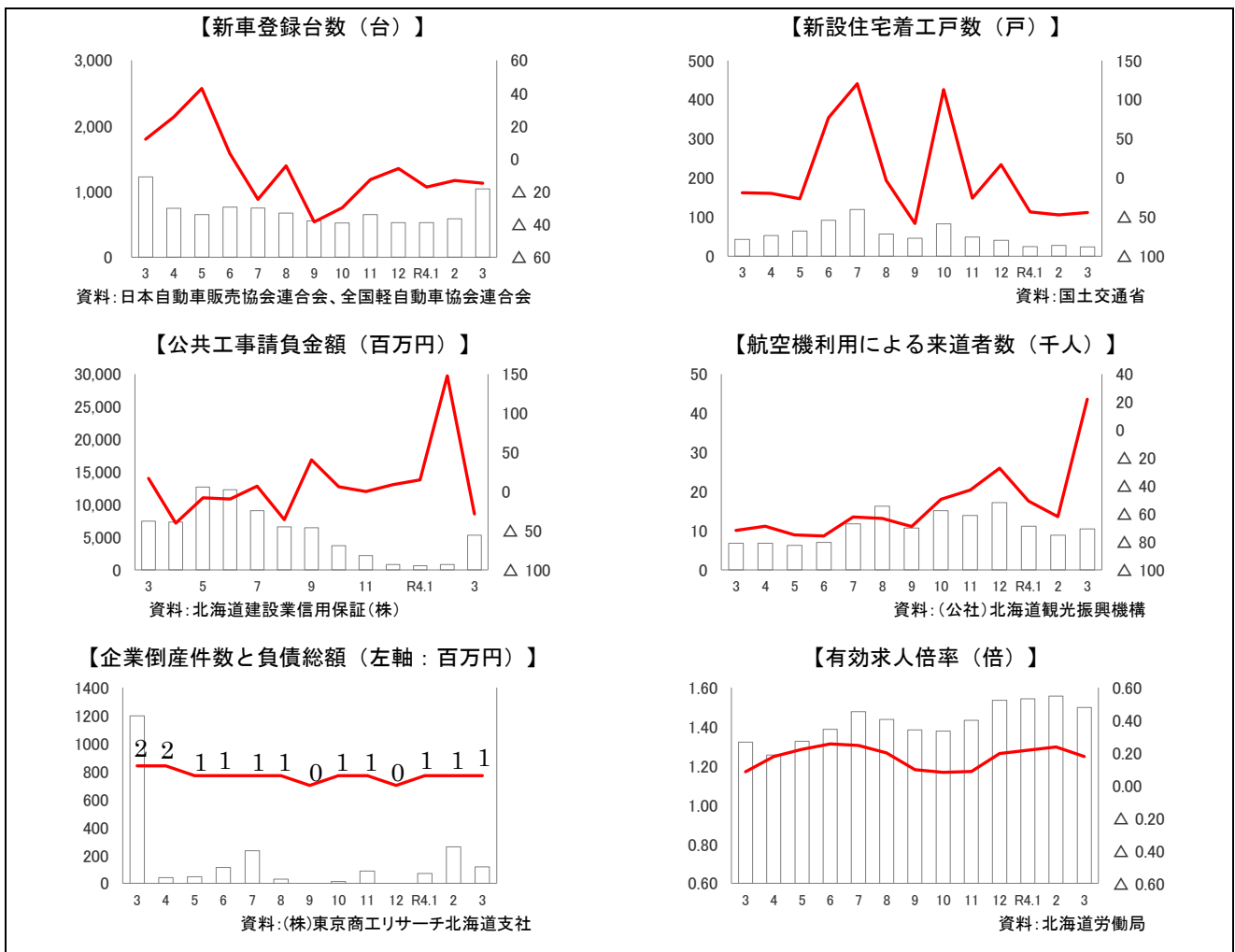
	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I
釧路信用金庫								
大地みらい 信用金庫								

### 3 業種別の業況感BSI（企業経営者意識調査）



	H31-I	R元-II	R元-III	R元-IV	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I
全業種	1	△ 25	△ 7	△ 21	△ 20	△ 53	△ 46	△ 42	△ 41	△ 16	△ 29	△ 15	△ 31
建設業	△ 9	9	9	△ 9	0	△ 40	△ 9	△ 27	△ 44	△ 50	△ 36	△ 27	△ 10
製造業	25	△ 36	△ 33	△ 33	15	△ 33	△ 36	0	△ 25	△ 10	△ 25	△ 27	△ 25
卸売・小売業	0	△ 50	△ 11	△ 27	△ 19	△ 34	△ 50	△ 67	△ 30	△ 11	△ 18	△ 14	△ 38
運輸業	△ 22	△ 15	△ 9	△ 31	△ 11	△ 67	△ 62	△ 45	△ 58	△ 18	△ 30	△ 18	△ 34
サービス業	12	△ 34	0	△ 13	△ 59	△ 75	△ 66	△ 61	△ 43	0	△ 34	7	△ 43

### 4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差)：%)